

2009年5月

古い町並みの残る奈良町を歩いていると今の時代に伝統の香りが佇んでいるのが感じられる。時代を感じる古民家や古い商店に溶け込むように新しい建物も昔ながらの雰囲気を感じさせるように建てられている。奈良町は伝統的なだけでなく国際的な町であることも興味深い。近くにあるものは見逃してしまったり、ありがたみを感じなくなったりするものだ。その美しさに気付くには一歩下がって見てみないといけないことがある。日本で伝統芸術に興味を持つ人が少ない原因の一つは伝統芸術に触れる機会が少ないことである。私のコンサートを聴きに来た多くの日本人が尺八を生で聴いたのは初めてだと言うのだから。

また、伝統芸術は家元制でお金がかかるのでお金持ちのすることだという固定観念も原因の一つである。どの分野の芸術においてもそのような組織があることは確かだ、そのような組織は伝統を守ることに重点を置いている。しかし、伝統を守るだけではなく、その成長と可能性を踏まえて社会に普及しようと活動している流派も多くある。私は日本に住む外国人の一人として、そのような伝統の良さを理解して伝承していくと同時に変化を受け入れることを恐れない組織に強く惹かれる。私は幸運にもこの様な組織と関わる事ができた。横山勝也系琴古流尺八と奈良国際映画祭である。また、奈良町にある由庵という和風カフェもその一つである。由庵は日本文化を外国人と日本人に広めることを目的としてできたカフェで、畳の部屋に国内外の伝統工芸作家の作品を展示販売している。私はこのカフェで月2回尺八を教えおり、定期的に小さなコンサートも行っている。少人数のコンサートなのでお客さんとのディスカッションも面白い。由庵はおいしいオーガニック料理が味わえるだけではなく、都会の一角でスローライフが楽しめる貴重な空間である。

尺八は簡単な楽器では無いのでなかなか普及しない。叩けば音の出るピアノや太鼓とは違い、尺八は音を出せるようになるまでに模索しないと行けない。しかし不可能ではない。私自身尺八を始める前は小学校5年生の時にサクソフォンを少し習って挫折して以来全く音楽の経験が無かったのである。実はその難しさこそが尺八の魅力なのである。日本芸術の多くがそうであるように、結果が大切なのではなく、それを習得する過程における自己発見に意義があるのである。私が尺八に引き込まれていったのは、尺八が創造性を表現する手段というだけでなく、その音楽を通して自分を見つめることができたからである。その音楽性は深く、複雑なのでポピュラー音楽には属さないが、年齢や国籍を問わず多くの人々が様々な理由で尺八に惹きつけられている。

最初に尺八に触れる機会が無かったら、それから何が得られるか知ることができなかつただろう。尺八が私の人生を変えたように音楽や芸術があなたの人生を変えるかもしれない。歴史に満ちた美しい奈良町を散歩してみませんか？今まで気付かなかつた何かに気付くかもしれない。